

アメリカ議会図書館蔵 初期外邦測量原図データベースの試験公開

外邦図の画像を公開するデータベースは、すでによく知られている『外邦図デジタルアーカイブ』（東北大学より 2005 年 12 月以後発信）にくわえ『お茶の水女子大学外邦図コレクション』（URL: http://www.lib.ocha.ac.jp/GAIHOZU_Web/Index.html）があり、従来ほとんど知られることのなかった外邦図への容易なアクセスを可能にしている。地形図類を主体に広域にわたる多数の外邦図を公開する『外邦図デジタルアーカイブ』に対し、『お茶の水女子大学外邦図コレクション』では、少数ながら大型の兵要地誌図（軍事的に重要な事項を記載）を公開し、外邦図には多彩なものがあることを知ることができる。

こうしたデータベースにくわえて、2013 年 3 月末より『アメリカ議会図書館蔵 初期外邦測量原図データベース』について大阪大学より試験公開を開始した。第二次世界大戦終結期（1945 年）に東京市ヶ谷の参謀本部に集積されていた外邦図を主体にする『外邦図デジタルアーカイブ』と『お茶の水女子大学外邦図コレクション』に対し、『アメリカ議会図書館蔵 初期外邦測量原図データベース』は、1880 年代に日本の陸軍将校が中国大陸と朝鮮半島でコンパスと歩測によって測量し作製した原図の画像を公開する。将校たちの作製した原図は、欧米製の海図にみえる海岸線や経緯度を枠組みに 20 万分の 1 図に編集され、さらにこれをもとに編集された 100 万分の 1 図は、まだ近代地図のほとんどなかった 19 世紀末の東アジアについて、パイオニア的役割を果たすことになった。

アメリカ議会図書館蔵 初期外邦測量原図データベース
Early Japanese Imperial Maps of China and Korea: A Database
2013-04-10

アメリカ議会図書館（The Library of Congress）は、日本陸軍将校が1880年代に作成した中国大陸と朝鮮半島を手描き測量原図を数百点架蔵する。本データベースは、近代地図にむけて転換期にあった東アジアで、パイオニア的役割を果たしたと評価されるこれらの地図の画像を閲覧に供する。

初期外邦図データベース作成委員会
小林茂・山近久美子・渡辺理絵・波江彰彦・山本健太・鳴海邦匡

ご覧になるには agree と入力してください。

閲覧する

本データベース構築にあたっては、平成24年度科学研究費補助金（研究成果公開促進費・データベース・一般）（課題番号：248016）を使用した。

< 外邦図研究プロジェクトのページへ

Copyright © 2013. All Rights Reserved.

これらの原図は第二次世界大戦終結後アメリカ軍により接収され、そのごワシントンのアメリカ議会図書館に収蔵されるに至っていたものであるが、ほとんどの地図は美しく彩色されたもので、測量と作製を担当した陸軍将校の氏名が記され、その個性さえもうかがうことができる。写真撮影をはじめとする私たちの調査の進行とともに、議会図書館の目録も整備され、このデータベースがさらに整備されれば、陸軍将校の残した原図は近代資料としてさらに多くの方面から利用されるようになると予想される。今後もさらに努力を続けたい。

（小林茂）